



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 川北 研人／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0287
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

全消協第48回定期総会

2024年9月5～6日の2日間の日程で、全消協第48回定期総会を開催した。今年度も昨年度と同様に、完全参集にて実施し、代議員数231人のうち201人の仲間が大阪府・大阪国際交流センターに集結した。

9月5日は、次の議事を行い、質疑・討論の後、賛成多数をもって可決・承認された。

- 議長団選出
- 議長プロック・京田辺市消防職員協議会から藤田正樹さん、関東甲プロック・小田原市消防職員協議会から大木直人さんが議長に選出され、議事進行を務めた。
- 須藤洋典会長の挨拶
- 来賓挨拶（以下、敬称略）
自治労本部書記長 伊藤功
自治労大阪府本部委員長 中野勝利
交野市消防職員協議会会長 川上修司
- 新規加盟単協挨拶
北海道プロック森町消防職員協議会会長 豊岡晃功
北海道プロック三笠市消防職員協議会会長 大政千晃
- 2024年度活動経過報告（事務局、女性連絡会、ユース部）
- 韓国公労総消防労働組合交流報告
- PSI第31回世界大会報告
- 2024年度会計決算報告
- 2024年度会計監査報告

その後、役員選挙報告を行い、会計監査に波平正朋さん（沖縄・宮古島市消防行政研究会）を選出した。退任・新任挨拶の後、須藤会長の「団結がんばろう」で閉会した。

2025年度も全消協は、会員の声を聴き、さまざまな課題解決に取り組んでいく。

全消協の役割は、問題を共有し課題を抽出すること、そして抽出した現場の課題を、国などに申し入れることにある。引き続き、活発な活動を展開し、組織強化はもとより、今まで以上に会員の皆様に寄り添ったサポート並びに住民サービスの向上に主眼を置いた活動に取り組んでいく。

何か困りごとがあれば一人で抱えず、気軽に相談し、うまく組織を活用していこう。



- 緊急決議案「加盟申請について」（宮崎市消防職員協議会）
について提起し、賛成多数をもって可決・承認された。
- 第2号議案「2025年度の当面の活動方針（案）」
- 第3号議案「2025年度予算（案）」



会長挨拶

（総会終了後）

まずは、9月5日、6日の両日、大阪で開催した全消協第48回定期総会に全国各地から参加いただきました。代議員・傍聴者の方々にも心より感謝申し上げます。また、各単協内で代議員のために勤務調整等のご助力をいただいた会員の方々にもお礼申し上げます。



本総会で、北海道プロックより森町消防協・三笠消防協の2単協が新規加盟し、九州プロックからは宮崎市消防協が12年の時を経て再加入しました。新しい仲間と経験豊富な仲間が増えたことは、全消協にとって大きな力となることでしょう。総会の際、代議員の方から「数は力である」との提言をいただきました。私自身もそのように感じております。今後も全消協執行部が丸となり、活動を推進し、全国の消防職員から賛同してもらえような運営を行っていく所存です。

さて、本総会の冒頭挨拶で、「多方面からの協力・援護射撃がなければ、労使が対等となる労働基本権回復の実現は難しい」と述べさせていただきました。我々を支援してくださっている「自治労消防政策議員懇談会」には、衆参あわせて約120人の国会議員がいます。来年の7月には参議院選挙があります。消防行政を向上させ、我々の職場環境を改善するためには法改正が必要であり、国会議員の皆さんの力が必須となります。議員懇の皆さんから力強い支援をいただくには、選挙で多くの全消協の会員が議員懇の皆さんに投票することが、私たちへのより強力な支援に繋がりますので、ご協力をお願いいたします。最後になりますが、本総会運営にご尽力くださった皆様に感謝を申し上げます。

全国消防職員協議会 会長 須藤洋典

定期総会 質疑応答

活動経過報告

四日市市消防職員協
議会 副会長
小河 誠寛

質問1-1

全消協と韓国との交流で今後も
しっかりと意見交換を行い、無賃金拘
束時間の解消にむけて活動を推進
いただきたい。

回答 川北事務局長

無賃金拘束時間の解消については
さらにヒアリングを進めていく必要
があることから、今後の交流で意見
交換、情報収集をはかっていく。

質問1-2

コロナの影響での脱会による全消
協の収入減、旅費の値上げ等で全
消協会計は厳しい状況にあるが、組
織強化・拡大は必要。効率的な運
営を進めていただきたい。

回答 川北事務局長

旅費の値上げもある中で予算
立ては難しいが、さまざま工夫して
いる。活動の効率化と節約で、皆さ
まの会費を適正に運用し、活動を
進めていく。

質問2 高知市消防職員協議会
事務局長 長田 哲宣

PSI世界大会の報告は大変心

強く感じている。救急逼迫の問題
について、消防側の人員・体制強化
も重要だが、地域医療全体の問題
として、自治労やヘルスケア労協
と連携し、解決にむけて
国会議員とも連携し、解決にむけ
て取り組みを進めていただきたい。

回答 川北事務局長

各地の消防の課題を吸い上げて
国会議員に伝えることは、全消協
活動の一つの活動と考えている。他
機関との意見交換や地方議員、国
会議員との関わりの中でも、全消
協は現場課題を発信していきたい。
ブロック幹事を通じて意見を届けて
いただきたい。

活動方針・ 予算案

質問1-1 小田原市消防職員協
議会(神奈川県消防
職員協議会会長)
佐野 匡一

激甚災害被災地へ協議会員とし
て災害支援に向かう際の、必要経
費の一部を全消協に負担いただきた
い。

回答 佐藤副会長

能登半島地震義援金では各単協
の皆様が協力をいただいた。今後も
全消協としての対応を都度検討し

たい。また、災害支援活動は、組
織強化・拡大に繋がる可能性があ
ることから、各単協や県消協、プ
ロックで被災地ボランティア活動を
検討されていると認識している。費
用は組織強化拡大交付金の活用等
を含め、各地で検討いただきたい。

質問1-2

少人数単協の負担軽減および新
規単協結成を促進するため、単協
結成または会員数が減少した少人
数の単協と同ブロック内の単協が一
緒に活動することについて、全消協
はどう考えるか。

回答 佐藤副会長

一番重要なのは、単協を立ち上げ
ようとしたときに、立ち上がった職
員が一人で孤立しない、潰されない
ようにすること。その対策について
全消協として即答は難しいが、プ
ロック、県、自治労単組の実情など
も踏まえて、情報を共有しながら
進めていきたい。

質問2 上田市消防職員協議会
齊藤 好太郎

「消防職員の勤務時間等の適正な
管理と運用について(以下)2006
号通知」というのは勤務実態と照
らし合わせると納得のできる内容で
はない。必要であればシンクタンク

等を立ち上げ、労働条件や法律の
専門家等から指導・助言をいただ
きながら、現在の勤務条件や法的
解釈で「無賃金拘束時間」と
「206号通知」を検証いただきた
い。

回答 佐藤副会長

この間、消防庁は、2006号通知
で、「消防職員は休憩時間の自由利
用原則が適用除外されており、休
憩時間であっても、火災出動等を
命ずることができ、命令のない
限りは何らかの義務提供が義務付
けられているところではない」とし
て、大星ビル事件と消防は異なる
という考え方を一向に改める姿勢は
みられない。これに関し、自治労消
防政策議員懇談会の重徳衆議院議
員からも、総務委員会で勤務時間
の核心に触れる具体的な質問に繋
がっている。

また、海外の消防では拘束時間
＝勤務時間は当たり前となっている。
韓国では2021年に労働基本権
団結権、協約締結権が認められ、
24時間勤務も勝ち取っている。韓国
の未払超過勤務手当支払訴訟の詳
細は、今後の交流で明らかにしたい。
繋がる大変重要な問題であると考
えており、引き続き活動を展開し
ていく。ご要望のシンクタンクの設
置については、今後の活動展開をみ
ながら検討したい。

質問3-1 釧路市消防職員
協議会 井直人

これまで「研究集会」は各単協

から1人ずつ参加可能であったが、
コロナが感染症5類移行後も各プ
ロックで人数制限されたのはなぜか。

回答 佐藤副会長

財政緊縮のため、研究集会は昨
年の実施状況を踏まえ、試行とい
う形でブロックごとの人数とした。
自主参加枠はできる限り人数制限
をかけず、希望する会員の参加が
可能になるようにしており、多数の
出席をお願いしたい。

質問3-2

「リーダーセミナー」に代わり「単
協代表者会議」が開催されていたが、
今後の実施計画を教えてください。

回答 佐藤副会長

リーダーセミナーは現在実施して
いない。単協代表者会議は単協の代
表者が集まり、協議・議決できる場
合。今年度の単協代表者会議は2025
年2月を予定しており、参議院選挙
を睨み、単協と国会議員を繋ぎ、各
議員との連携強化を考えている。今
後の実施については、他の講座(ユ
ーステップセミナー、労働講座
等)や研究集会とのバランスをみな
がら、執行部で決定していく。

質問4 苫小牧市消防職員協議会
佐藤 友哉

高齢期職員の働き方について、今
年度も総務省に申し入れを行うか。

回答 佐藤副会長

2023年4月から制度は開始し
ており、今後は各本部で発生してい
る問題を抽出していかなければ

ならない。全消協は、単協に対しア
ンケートの実施を予定している。
2022年の消防庁の「1定年引き上
げに伴う消防本部の課題に関する
研究会報告書」にも、全消協の意
見が反映されている。引き続き年2
回実施している消防庁への要望書提
出などの機会を捉えて、会員の現
場の声から抽出した課題を伝えて
いきたい。

質問5-1 高知市消防職員
協議会 長田 哲宣

広域化について、県で消防の事務
を担うためには、消防組織法の改
正が必要と聞いている。法改正に関
する情報収集等を含めた取り組み
をお願いしたい。

回答 佐藤副会長

全消協は活動方針の中で広域化
に対する考え方を示している。問題
となる広域化については反対の立場
をとりながら、地方議員、国会議
員とも連携し、課題を共有しなが
ら進めていきたい。

質問5-2

無賃金拘束時間問題について、東
京メトロで24時間拘束される全泊
勤務の職員の休憩や睡眠時間が労
働時間に該当するとして、労基署
から86億円の割増賃金を支払うよ
う是正勧告を受けたとの報道があっ
た。全消協も大星ビル事件判決に
加えて、この事案も取り入れた活動
を展開してはどうか。

回答

会員、非会員含め、あらゆると

ころから、無賃金拘束時間問題について相談を受けている。個々に対応しているが、この問題の解決には会員一丸となって組織で取り組んでいく必要がある。

質問6 名護市消防職員協議会
小橋川優

次代の役員体制の強化という点も踏まえ、全消協活動を担う役員に対し、役員手当の支給を検討してはどうか。

回答 長谷部副会長

単協に対し、役員就任時にPC購入代等の補助として1人10万円までの役員選出単協補助費の支給のほか、役員には日当2千円を支給している。現在、全消協会計は単年度2千万円の支出超過している状況で、役員手当の支給は難しい。財政面からは、役員選出単協補助費を活用して日頃の活動に取り組んでいただきたい。

質問7-1 柳川消防行政研究会
荒巻俊輔

消防庁の「緊急消防援助隊の手当に関する通知」を受けて、各単協での取り組み状況と全消協の今後の展望について見解を伺いたい。

回答 佐藤副会長

全消協は、今回の統一意見提出の取り組み状況の点検をする予定。引き続き消防職員委員会に意見提出を行いながら、勤務・労働条件を改善していくことが重要。あわせて消防職員委員会制度の矛盾点の追及も必要と考えている。

質問7-2

福岡県消研の最重要課題は人員確保。現状、消防力の整備指針に關し、職員充足率が50%にも満たない本部もある。全消協の人員確保に対する認識を伺うとともに、どのような取り組みを検討しているか。

回答 佐藤副会長

人員確保は重要課題と認識している。地財計画における消防職員の人員は増えているが、整備指針の充足率は各本部でかなりの違いがある。情報を共有しながら、人員確保にむけて取り組みを進めていきたい。

質問7-3

自治労県本部消防担当者会議は単発開催ではなく、参集での継続開催を要望する。

回答 川北事務局長

今秋に開催予定と聞いている(10/10に開催済)。また、自治労の確定闘争の要請項目に、消防の災害派遣手当の取り組みも盛り込まれる予定。自治労・全消協は連携して取り組みを進めていく。

質問8 鹿児島県消防職員協議会
前原秀泰

全消協会費の増額計画を聞いたが、値上げの理由、増額分をどのように活用するつもりか。

回答 川北事務局長

会費の増額は現在検討していない。

全消協第52回全国消防職員研究集会

—2024年5月14日、15日の2日間。全国から自主参加を含め98単協159人、未組織から5人が参加—

冒頭、須藤洋典会長から、本研修会の意義を踏まえ、主催者を代表して挨拶を行った。

次に、自治労本部の伊藤功書記長から、「6月に開催されるILO総会・基準適用委員会での審議にむけ、今こそ全消協が一丸となり立ち上がる時である。仕事に見合った処遇改善をめざし、中央本部・県本部・単組が一丸となって消防協をサポートしていきたい」と熱意のこもった挨拶をいただいた。

1日目の記念講演では、ジャーナリストの浜田敬子さんをお招きし、「男性中心社会の終焉 なぜ組織にダイバーシティが必要なのか」と題する講演をいただいた。浜田さんは、自身の経験から、職場で起きているハラスメントの問題について触れ、「ダイバーシティ」への理解と共有が働きやすい職場環境づくりの根幹となり、結果、生産性や士気の向上に繋がると訴えた。年齢や性別に問われることなく、ダイバーシティを実現し、「誰もが働きやすい職場環境づくり」を我々は推進していかなければならないという思いをさらに強める機会となった。



次に、川北研人事務局長が「消防職場の課題と共有」全消協の取り組み」と題し、①災害派遣、②救急体制の逼迫、③消防職員の殉職事故④消防職場をとりまくハラスメント、⑤

新たな感染症への対策」の5点に關し、消防職場に今、何が必要なのかを提起した上で、全消協の取り組みを紹介した。2日目の分科会では初の試みとして、全消協が年2回行っている総務省消防庁要請に反映することを目的に、5つの分科会に分かれ参加者同士で議論し、現場からの要望・意見を抽出する取り組みを行った。参加者からは勤務人員の増強、福利厚生の実等、貴重な意見と要望があげられた。ここでまとめられた要望は、7月に実施した消防庁要請項目に反映した(4面参照)。全消協は、今後も会員の声を届けていきたい。



全消協ではホームページのほか、Facebook・X・Instagramを開設しています!



今後の予定

2024年 11月16日(土)・17日(日)
第55回労働講座(東京都 日本教育会館)

2025年 2月18日(火)・19日(水)
2025年度単協代表者会議
(東京都 議員会館・日本教育会館)

新規単協挨拶

せたな消防職員協議会

たこと、心より感謝申し上げます。
 せたな町は2005年に大成町、北檜山町、瀬棚町の3町が合併して誕生し、北海道の西部、日本海に面した檜山北部に位置しており、せたな町の北には島牧村に、東は今金町、南は八雲町に、西は日本海を挟んで奥尻島を臨みます。せたな町・島牧村にまたがる標高1520mの道南最高峰の山であり、北限に近いブナ林が広がる「狩場山」。道内外の多く



全国の皆さまはじめまして。
 2024年8月5日をもって結成いたしました、「せたな消防職員協議会」です。結成の際には、全国の皆さまから御祝辞をいただきました。

の海水浴客が集まり、せたなの名所奇岩である三杉岩の元で、綺麗な海を楽しむ「三本杉海水浴場」。全国最多回数の21回にもわたる清流日本一に輝いた「後志利別川」など、山・海・川等の美しい自然に囲まれた環境にあります。また、日本一危険な神社としても有名な「太田神社」や、日本女医第一号である「荻野吟子」開業の地としても知られています。
 さて、日本全国で発生している未曾有の災害により、被災地ではいまだ復興に至らず、多くの尊い命が犠牲となっております。消防行政においても、複雑・多様化する災害への対応や救急需要の増加などにより、国民からの期待は増加の一途を辿っているのが現状です。これらの事象に対応していく必要があるほか、消防職員は自らの健康や生命が危険な状況に置かれながらも、地域住民の生命・身体及び財産を守るために日々奮闘しており、職場における安心・安全な労働環境が必要不可欠で

あります。
 そこで、労働環境の改善やハラスメントの防止など、我々消防職員全員が人命救助という目的の下、意識を高め、安心・安全に働き続けられる職場となるよう、日頃から仲間を支え、助け合うことができる職場環境をめざし、職員協議会を立ち上げることとしました。
 当会は、せたな消防署内の現会員12人で結成した小規模な単協ではありますが、全消協をはじめ、道消協および函館地方ブロック消防協、各単協、並びに自治労北海道本部、自治労関係者の皆さまのご尽力の賜物により、結成に至ることができました。
 今後の皆さまとの関わりや繋がりが、より職場環境への第一歩だと感じております。何卒、御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願いたします。
 せたな消防職員協議会 事務局次長 井村 圭

「消防行政の充実強化に関する要望書」を
 総務省消防庁へ提出



池田消防庁長官への挨拶の様子



須藤様と藤原課長との交わす緊急要望書

7月11日、総務省消防庁に対し、予算要求時期にあわせて、2024年度第2回目となる「消防行政の充実強化に関する要望書」を提出した。

はじめに、池田消防庁長官への挨拶および全消協活動について

ての説明を行った。要請行動には、全消協四役が臨み、消防庁からは畑山消防・救急課長、箕打消防・救急課長補佐、鈴木広域応援室理事らが対応した。
 冒頭、畑山消防・救急課長と要望書を交わし、消防職員のおかれた現状を踏まえ、7項目(①消防行政の充実と労働安全衛生体制の構築、②救急業務等、③緊急消防援助活動等、④働きやすい職場環境の整備、⑤広域化、⑥その他の労働条件に関する事項、⑦消防職員との協議の継続・推進)について訴えた。

そのうち、今回回答を求めたのは、以下の重点5項目。
 ①休憩・仮眠時間を含めすべての時間を拘束時間(労働時間)とする対応、救急出動件数の大幅な増加等を踏まえた人員の確保など消防現場の働き方の改善
 ②感染症等の流行を想定し、安全衛生危機管理の観点を踏まえた必要な対応
 ③緊急消防援助隊の災害派遣手当等の支給に関する条例等の整備状況の全国調査実施の要望および各消防本部等に対する手当や旅費等の格差の解消
 ④野営時のテントなどの季節や環境に対応した装備の充実、災害現場におけるトイレ等の設置の改善
 ⑤ハラスメント撲滅にむけた、より一層踏み込んだ施策の措置
 これに対し、消防庁からそれぞれ回答があった。とくに、④の野営テントや災害現場のトイレの設置等については、消防庁としても全消協の意見に強く理解を示した。「厳しい環境の中で対応しなければならぬ消防職員の活動環境の整備は重要と認識しており、緊急消防援助隊の後方支援活動としての車両、資材の整備をより一層進める」と回答し、具体的にはトイレも含めた資機材を幅広く持つ拠点機能形成車の配備増や、高能アテナントなどの整備を検討している、という回答を引き出した。
 なお、今回の要望内容は、5月に開催した全消協第52回全国消防職員研究集会の分科会で、参加者の協議で抽出された内容を要望事項に盛り込んだ。消防現場の課題は、地域毎に多種多様であることから、今後も全国の会員からの意見を反映させ、要望していく。

半鐘の
 足音

昨年の総会から北信ブロック幹事となり、もうすぐ1年となります。今まで経験したことのないことばかりで、学ぶことが多くあります。先輩の皆さまとともに、戦力になれるよう活動していきたいと思っております。
 私の所属している単協では、最近、脱会する若手の方が多くなっています。なぜなのか。
 私の単協では、会長をはじめ執行部も積極的に活動を行っていき、感じているのですが、実際に、コロナが始まった当初から感染症等にかかる助成金制度を立ち上げたり、ガソリン代補助金支給、資格等の受講料の補助など、まずは会員に協議会に入っているメリットを感じてもらいたい、そのようなきっかけから、退会を防いだりすることができた、とろうと考えていました。ですがこれらの活動の効果は、現在では一時的なものになっているように感じています。やはり、どうしても「会員費を生活費に回したい、投資(回)したい」など、日々の考えや、年齢が上がれば執行部に任命され、仕事でもないのに業務が増える」などといった理由で退会し、それが芽づる式に波及し、退会者が増えるという状況になります。
 須藤会長が日頃からいわれている「数は力」という言葉は、大変重要だと思います。新しく設立される単協もある中、消滅していく単協もあり、どのようにしたら、全国の消防協議会員を増やせるのか、日々考えています。目標を持って、モチベーションを高く維持することで、やりがいを感じられ、楽しく生活を送れるのではないかと思います。これは協議会活動も同じことだと思っております。
 さて、僣越ですが、私がよく目標設定に活用するマンダラチャートをご紹介します。この方法はメジャーリーグで活躍している大谷翔平選手が高校時代に活用していたことで有名になりました。9つのマスの中心に達成したい大目標を記入し、その周りに達成に必要な8つの項目を記入します。そしてさらに大目標達成に必要な8つの項目を細分化し、目標達成のための歩むべき道を明確化するものではない、不思議なもので、ここまで掘り下げて目標を考えると、不可能に感じていた目標が達成可能に感じてきます。やはり大きな目標達成のためには、小さなことの積み重ねが大切なことを実感します。「進まざる者は必ず退き退かざる者は必ず進む」、福沢諭吉が目標を持つことの重要性を説いた言葉です。目標は人生を変えます。
 全消協では、組織強化、労働安全衛生、資金・労働条件、国際連帯活動などの取り組みとあわせて、各単協から意見の吸い上げも行い、目標を掲げて活動しています。会員同士、魅力のある気持ちのよい活動ができるように、これからも努めていきたいと思っております。
 清水大輔(北信ブロック幹事、上田消防職員協議会)